

重要魚種の卵稚仔及びプランクトンの研究

(我が国周辺漁業資源調査)

(予算区分 受託 研究期間 平成8年度～)

担当：資源海洋科 池田卓摩

【研究の背景とねらい】

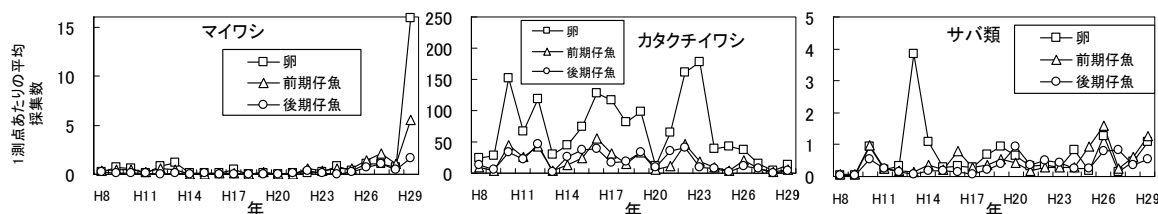
国連海洋法条約批准に伴い、我が国周辺における漁獲可能量（TAC）の決定など資源の保存及び管理に関する措置が義務付けられ、重要魚種の資源評価のため各種データの収集・解析が実施されています。

イワシ類、サバ類など重要魚種の卵稚仔についても、資源評価情報の一環として、出現状況の調査を行っており、静岡県では調査船を用いて静岡県周辺海域の卵稚仔等の出現状況や分布を調べ、これら重要魚種の資源動向との関連性を検討しています。

【これまでに得られた成果】

(平成29年度の状況)

- 静岡県周辺の海域で毎月約26測点の調査を実施しました。
- 駿河湾及び遠州灘周辺でのマイワシの平成29年1～6月の1測点当たりの卵、前期仔魚、後期仔魚の平均採集量は、前年及び過去10年平均を大きく上回りました。一方、カタクチイワシの平成29年1～6月の1測点当たりの卵、前期仔魚、後期仔魚の平均採集量は、前年を上回りましたが、過去10年平均を下回りました。
- 太平洋系群のマイワシ資源は増加傾向、太平洋系群のカタクチイワシ資源は減少傾向にありました。静岡県のシラス漁ではマイワシの割合が増加傾向にあり、卵稚仔調査や太平洋系群の資源動向と同様の傾向が見られます。
- サバ類の平成29年1～6月の1測点当たりの卵、前期仔魚、後期仔魚の平均採集量は、前年及び過去10年平均を上回りました。太平洋系群のマサバ資源は中位増加、ゴマサバは中位減少傾向にあることから、今後注視する必要があります。



マイワシ、カタクチイワシ、サバ類の卵稚仔1測点当たり平均採集数（1～6月）

【期待される効果】

- 全国的に卵稚仔の情報が集積されることで、我が国周辺における重要魚種の資源評価や資源動向の情報として活用されます。

【今後の計画】

- 沿岸域の重要魚種の卵稚仔の出現状況と、漁況との関係を検討します。

(作成 平成30年4月)